

令和5年度 第1回小松島高等学校 学校運営協議会

1 日時

令和5年5月30日（火）午前10時から

2 場所

小松島高等学校大会議室

3 会次第

（1）開会

（2）自己紹介

（3）学校長挨拶 役員選出

（4）協議

小松島高等学校の現状

学校長挨拶

（板東校長）

お忙しい中のご出席、また今年度の委員も快くお引き受けいただきありがとうございます。

保護者のかた、地域の方々と協力をして、生徒の育成、小松島高校の魅力化に関する話し合いの場である。皆様からのご意見やご助言を学校運営につなげたい。

本年度第1回ですので、役員決定、本校の教育方針、教育活動についての紹介、校則についての議題について忌憚ないご意見をいただきたい。

（板東校長）

役員選出について

資料1

運営協議会要項をご覧ください。

第6条 会長、副会長をおき、
事務局原案を提案させていただきたい。
会長を徳島大学 畠先生、副会長を板東でよろしいか。

全会一致 意義なし

進行を畠会長にお願いします。

（畠会長）

県内県立公立高校においてはすべての学校において学校運営協議会を置くこととなっています。地域の教育力を学校運営に生かすために、小松島、地域の人材育成について忌憚ないご意見を頂戴したい。実り多き会となりますよう、ご協力をお願いいたします。

次第に従って協議にうつりたい。

① 小松島高校の現状と課題について

(板東副会長)

コミュニティスクールについて説明をさせていただく。教育活動について委員の皆様からご意見やご助言をいただき、教育活動を充実させていただき、情報提供や支援活動もいただければありがたいと思う。学校の教育活動をより分かりやすくするためにすべての学校において学校評価を行なっている。自分の学校だけで評価するのではなく、委員の方々にもご意見をいただき、PDCAのサイクルを回すためにもこのような評価を行なっている。現状はこのPLAN（計画）の段階である。実践を行い、12月にはアンケート調査などを行い、今年度の取り組みについてチェックをしていただく。そのチェックの段階においては委員の皆様にもご意見をいただき、その評価をもとに来年度の計画に活かしていこうということである。ご意見をいただきながら協議会を進めていければと考えている。

学校要覧をご覧ください。

13ページ 各学年約170名 5クラス

160名となると4クラスになる可能性がある。そうすると教員定数は減る。

部活動など今の形態では難しくなる可能性もある。

約9割の生徒が進学している。

進学先の内訳については、要覧の通り。

11ページ 特別活動の様子を掲載している。

ライフル射撃部は全国大会で入賞する実績を収めている。

体操部も全国大会に出場している。

学校案内に掲載しているスクールミッションについて、「自分の物語をつづっていく「松高・未来のための手帳」や、生徒が教師役となる「生徒授業」、「松原育樹ボランティア」など、生徒主体の活動をとおして、地域の経済活動や社会生活を豊かにする実践力を育成します。」とある。

これは教育委員会がどうあるべきかと設定したものである。

本校の校訓である自主自律、親和協同、日進日新をもとに、グランドデザインを設定している。自分とむきあう、相手とむきあう、世界とむきあう活動をより一層充実させようと思っている。自分とむきあうための活動の一例としては「未来のための手帳」を活用することで、自分をコントロールしたり、目標をもったりすることができるようになる。生徒授業の実践によって、相手の立場を考えたり、相手と真剣に話したりするような力を身につける。また、松原の育樹ボランティア活動によって地域や世界とむきあう活動になる。それ以外の教育活動でもこれらの力を育成するような活動を行なっていきたい。

生徒授業においては、本校の授業内で行うだけではなく、近隣中学校にご協力いただき、生徒授業をさせていただいている。

松原育樹ボランティア活動は、定期考査後の放課後を利用して行なっている。生徒の半数が参加している状況。松500本を1999年に植樹、枯らさないように年間5回育樹活動で下草刈りを行っている。

本年度の重点目標について説明いたします。

(i) 主体的・対話的で深い学びの実現

観点別評価に力を入れていく。新学習指導要領の実施により、現在の1、2年生が行なっている。

100点満点の点数だけしか生徒にフィードバックしていなかったが、それぞれの観点にABCの評価をしていく。生徒は学習改善に生かしていく、教員の指導改善の目的のために導入された。教員に浸透するように今年度は活動していく。

探究活動の充実、全校一斉学習マラソンについては後ほど、担当から説明させていただく。

(ii) キャリア教育の充実については、委員の方々にもご協力いただきたい。

1割の生徒が就職をしている状況。大学に行く生徒も、将来自分がどのような職に就くのかということを考えて上で、学部を選んだり、県外に進学した生徒が徳島県の企業のことを知り戻ってこられるようにできないか、考えているが現段階はいいアイデアがないので、お教えいただきたい。1、2年生に対してその様なことができればよいなと考えている。

(iii) 生徒主体の活動の充実

コロナ禍での制限も緩和され、活動に制限がなくなった。

文化祭も外部に公開したいと考えている。模擬店もいろんな人を呼んで実施したいと考えている。保健所からの模擬店の出店が厳しくなっている。キッチンカーを呼んだりすることはできないか。生徒が調理の手伝いができるか、を模索している。

ボランティアについては、これまで通り、小松島市と連携してボランティアさせていただきたい。

(iv) GIGAスクール構想の推進

Classiの学習トレーニングの活用により、個別最適化の教材で生徒が主体的に学ぶ姿勢を養うよう各授業での積極的な活用をしようと計画している。

NEWS PICKSの導入を考えている。世界とむきあう力があまり強くないという印象。ニュースサイトであり、小松島高校のコミュニティを設定することができ、本校の教員と生徒だけしか入ることができない。教員はコメントを残したり、生徒もコメントを読んだりすることができる。課題研究の課題設定に役立てられたらと考えている。

(v) 開かれた学校づくりの推進

学校運営協議会がまさに開かれた学校づくりの場である。オープンスクールや体験授業などにも力を入れていきたい。

松高WEBサイトのコンテンツを充実させ、発信をしていきたい。

(vi) 働き方改革推進について

根本的な解決に向かえるような方策はまだないが、学習アプリの活用により推進できたらと考えている。ほんの数分のことであっても、取り組んでいきたい。

(畠会長)

ただいまの説明について質問はありませんか。ご意見やご提言については後程受け付けます。

② 未来のための学びプロジェクトについて

(笠江指導教諭)

本校独自の取り組みである、松高未来のための学びプロジェクトについて説明させていただきます。平成27年度に松高をよりよくしていこうという有志で始まった取り組みである。この取り組みを令和4年度教育委員会に認めていただき、表彰を受けた。受賞理由は生徒授業や未来手帳を活用しているということだった。集まれる時間に、集まれるメンバーで学校の議題について話し合い、1時間程度で終わるような会議を定期的に設けている。今回は7月に実施予定である。スクールミッションについて詳細をお伝えします。未来のための手帳の中にある、中間考査のページの活用の様子を写真でみてください。目標設定をして活用している。オリジナルの取り組みを広げる取り組みを行いたいということから、手帳コンクールを年2回行っている。管理職や学年主任が優秀賞を選んでいる。これがコンクールに入賞した生徒の様子である。手帳の取り組みは徳島新聞でも取り上げられた。続いて、生徒授業について説明します。生徒授業は校内だけでなく、中学生体験入学や近隣の中学校に出向いて、本校生が教師役となって、自分の学びを伝える授業を行っている。この経験を通して、新しい自分を発見したり、小松島高校の魅力であると実感したりするような機会となっているように感じる。生徒授業をした生徒が、未来手帳に学びを書いている様子が見られたため、手帳の中に生徒授業に関する特設ページを設けた。学習マラソンについても、未来手帳に記入するようアップデートした。学習マラソンは定期考査の2週間前から行っている。考査1週間前は、必ず勉強しているので、その期間を長くするには2週間前からしてはどうかという、生徒のアイデアから生まれた取り組みである。学習マラソンがあることで、学習への動機付けになっている様子が見られる。

スクールミッションにもある生徒授業は、伝えるだけではなく、自分達が小中高の学校生活で学んできたことのつながりだったり、他教科のつながりを感じる経験になり、自分の成長を感じたり、本当のわかると感じたりとたくさんの効果を感じている。学力の捉え方が本校生は変わってきているのではないかと思う。学びにむかう力が学力であり、点数だけではないという視点を学びとっていると考え。数学科の取

り組みとして、数学レポートコンクールを行っている。数学で学んだことを身近に感じるきっかけになればという思いで、平成30年から行っている。昨年度は410名が応募した。表彰もしている。新しい頑張り方の提示をしている。Classiは徳島県教育委員会が費用を負担し、生徒負担なしに利用している教育サービスである。これを活用し、学習マラソンをシステマティックに行うことができている。グラフで色分けを確認したり、学習時間がクラスで何位かということも確認したりすることができ、自分の学びを点検することにつながっている。教師からのメッセージも伝えることができている。学力アップチャレンジ週間を取り入れており、個別最適化の学びの実現のため、来週から実施する。自分にあった問題に取り組むということが、プリントを配布されただけでは実施できない。勉強方法を増やすことができ、勉強スタイルをアップデートできるのではないかと考え、応援したいと思う。手帳の新しい使い方なども、次回の協議会でお伝えできればと考えている。学習マラソンは参加者も総学習時間も昨年度より増えている。Classiについては、教師からの連絡を一斉に送ることができる。生徒は一日の流れなどを視覚的に確認することができる。勉強以外のコミュニケーションツールとしても、現在の生徒に合っているのではないかと思う。徳島県全県下でClassiは導入されているが、小松島高校は教師、生徒ともに利用率が一番であるようだ。11月は教師は3位であるが、生徒は2位を維持している。本校はポータルフォリオなど生徒からの投稿が多くなっているのが特徴である。

以上スクールミッションについてお伝えした。

(畠会長)

未来手帳(略称)、生徒授業、Classiの具体的な取り組みについてもお伝えいただいた。手帳についてはアップデートもしていただいた。生徒授業では、学びから教えるというラーニングピラミッドにあるが、学びの効率がどんどん上がっていく取り組みであると感じた。それらをPDCAを回されて、わかるからできるへ、学ぶわかる学力から、それを実行していくことによって楽しむ学力へ2つの学力が交錯している動きを感じた。それらが意味づけされていることがいいなと感じる。この学びが何を目的としているのか、生徒がわかることで学習効率がさらに上がっていく。ただいまのご説明に関して、何か質問はありませんか。

(藤本委員)

昨年度小松島中学校にも来ていただいた。中学校以外でも、生徒が授業をしているということが想像できるが、どういう場面でしているのか。こういった形態でなら実現できるのか。全員が行うのか、こういった場面で行っているのか教えてほしい。

(笠江指導教諭)

教科によってさまざまであるが、数学科では全員が生徒授業をする機会がある。昨年度は、国語科では、11月に生徒授業にチャレンジしようというように、単元やポイントを絞って取り組んでいる。中学校に出向いて行っている生徒授業は、総合的な探究の時間で生徒授業に行くということを目標に取り組む班を設定し、数学と理科の授業について校内で準備をして本番に臨んだ。年度によって様々なアレンジを行なっている。

(藤本委員)

例を教えてください。一人の生徒はどのような分量の経験をするのか。

(笠江指導教諭)

総合的な探究の時間の時間で、生徒授業を目標にしている生徒が中学校へ出向いた。他にも各教科の授業で生徒授業を取り入れている。

(谷本委員)

Classiの利用率が松高が一番ということだが、県内の高校の利用率上位と下位で非常に差があるように思われるが、それでいいのか。県内全ての高校で導入しているということであるが。

(板東副会長)

利用しているアプリがClassiだけではなく、他のツールを利用しているという学校もあるためである。本校はClassiを重点的に利用しているが、学校によって利用しやすいものを使っている現状である。

(沖委員)

委員会としてもGIGAスクール推進を進めているが、利用率が上がらない現状もある。使うようにどのような工夫をされているのか。

(笠江指導教諭)

答えなければならないアンケートもClassiを利用して行なっている。定期的なそのような機会を活用しながら、自主的にClassiを開けるように、先生方からの呼びかけであったり、楽しく使ったりできるような工夫を行なっている。

(佐藤委員)

子どもが使っているアプリを見ると、小さな広告が入るようなものもあるようである。学校貸与のものであるにもかかわらず、である。Classiにはそのような広告は入らないか。

(笠江指導教諭)

広告は入っていない。

③ 令和4年度学校評価総括評価表及び令和5年度学校評価計画について

(牧野教頭)

昨年度の学校運営協議会でいただいたご意見を参考に、今年度のものを作成した。冊子が薄くなっている。昨年度は6つの「本年度の重点課題」をもとに、各担当が取り組む課題を設定していた。本年度は、担当ベースに記載をしているので、ページ数が減って見やすくなったのではないかと考えている。今年度は授業評価をなくした。授業評価をなくしてはいるが、観点別評価を行う中で、生徒が書く振り返りシートの中で、授業に関する振り返りの記述内容に授業への評価が表れる。働き方改革の一環でもある。そのため、評価指標が変わっている項目がある。令和4年度最終評価の11ページに記載しているが、学習時間に関する項目でC評価がついているが、学習時間を自分を成長させるための時間と捉えれば、いわゆる学習課題や自主学習に取り組む学習時間だけでなく、部活動をはじめとする様々な活動も学習時間ととらえられるのではないか。そのような視点で捉えると現時点でもAやB評価ではないか。小松島高校は多様性のある学校であるため、新しい学力の捉え方をしてみてもどうか、というご提案があった。そのような視点も加え、1学年では学習時間に関する記述はない。2学年では、あえて家庭学習時間を残し、生徒に家庭学習の習慣を身につけさせたいということである。今後の会でご意見をいただきたい。

(畠会長)

質問はありますか。

(井村委員)

重点課題に働き方改革とある。部活動や進路指導に費やす時間が多いようである。教職員の負担軽減ということで、中学校では、部活動の休みの日を設定したり、外部指導員を導入したりしているようであるが、高校はどうか。

(板東委員)

高校も、本年度は県教委から指示があり、部活動適正化委員会を組織として設定するようになった。先日会を行った。部活動の方針を決めてホームページに掲載することになっている。週1回は休みを設ける。平日は2時間程度、休日は3時間程度の活動時間としていくという話し合いを行った。部活動の外部指導

員に関しては、部によってすでに活用しているところもある。部活動の指導を生徒の成長に意義があると捉え、やりがいを感じている教師もいる。部活動の指導を学校教育と完全に切り離すと、やる気を削ぐことにつながることもあり得るので舵取りは難しい。先生方の勤務時間を適正化するというのと生徒の時間を確保するという事の両面から考えていきたい。コロナ禍で活動時間が制限されたことを経て、効率的な練習を模索しているところでもある。

(井村委員)

コロナ禍で知恵を出しながら、効率的な活動を考えてこられたということはよく聞く。小松島高校の話ではないが、子どもは専門的な先生に教えてほしい。専門ではない部活動を受け持つことになった教員の負担も大きいと聞く。生徒数の減少により弊害もあると思うので聞かせていただいた。

(町田委員)

11ページのところに、自分を伸ばす時間を学習と広く捉えているという画期的な考え方があったが、高校1年生は自分を伸ばす学習の仕方は分かっているのかなと疑問に思った。自分自身を振り返ると、部活動で自分を成長させたと考えている。

(牧野教頭)

昨年度、観点別評価で学びに向かう態度を評価するようになっている。その中で、小テストなどスモールステップで少しずつ評価をするようになった。自分の学習の態度について自分で振り返る機会も設けている。1年生にも先生方が学習の方法や態度などを向上させるような働きかけを行なっている。Classiにも学習支援についてたくさんの投稿を行なっている。

④ 校則について

(安崎教頭)

主に制服の規定についてお願いします。生徒の主体性を尊重した校則の見直しを行う方向である。人権を尊重した内容になっているか、合理性はあるか、PTAや学校運営協議会の意見は反映されているか、という視点を入れて見直しを行う。本校では『松高・未来のための手帳』に記載して公開している。徳島県内の全ての高校で10月末を目処にホームページにも公開するという事になっている。『未来のための手帳』の51ページに制服についての規定がある。合理的でないものはないように考えている。頭髪についても支障があるものについては禁止になっているが、他校に比べて著しく厳しいということはないと感じている。

(井村委員)

以前に制服の見直しという動きがあったように思うが、現在はどうなっているか。

(安崎教頭)

継続的に検討するという事になっている。

⑤ 各委員からの提言等について

(畠会長)

最後に、委員からの提言ということである。学校運営方針や未来のための学びプロジェクトについてご意見やご提言はありますか。

(井村委員)

学校祭でキッチンカーの利用を検討しているということであったが、JAなどが持っているキッチンカーを借りて、生徒たちで作って提供するという事は考えているのか。

(板東副会長)

そういった形ができたとは考えている。個人経営されているところに学校がお願いに行っているのかと模索している段階である。

(井村委員)

キッチンカー協会というものがある。そちらに相談してはどうか。賛同してくれるところもあるかもしれない。

(佐藤委員)

県庁もキッチンカーがある。運営は徳島文理大学が活用されていると聞いている。県も借りれるかもしれない。

(板東副会長)

情報提供をありがとうございます。

(畠会長)

生徒がメニューの考案などはできるのか。

(佐藤委員)

生徒で借りると生徒主体の活動になるのでは。先生が借りると、生徒主体の面は薄れてしまうかもしれない。

(井村委員)

保健所の指導が入るので、キッチンカーを借りるのではあれば料理の専門の先生に来てもらってはどうか。

(板東副会長)

予算面も考えて検討していきたい。

(藤本委員)

スクールミッションに掲げられている、未来のための手帳や生徒授業、松原育樹ボランティア活動などは素晴らしい教育活動だと考える。先ほど質問もさせていただいたが、生徒授業については有意義な活動だと思う。本校にも来ていただき、よかった。その反面、実施するのが難しい点があるのではないかとと思う。具体的にどのようなハードルを乗り越えてらっしゃるのかと気になった。全ての生徒にとって有意義であると考え、またこの生徒授業を経験した生徒の中から将来教員になりたいと考える人が出てきてくれればより有意義なのではないかと考える。この活動を広めたり深めたりしていただけたら、と思う。松原育樹ボランティア活動を合同で行う活動がある。そういった体験的な活動を通じて、地元中学校から小松島高校へ進学を希望する生徒がもっと増えてほしいと考えている。

(佐藤委員)

進学を希望している生徒たちも、社会を見ることができてから大学選びをするというような機会を設けたいという学校長の言葉に共感した。令和5年度の評価票の中で社会を見る部分が文字として表れていないのではないかと考えた。松原育樹ボランティアなどで社会を見る活動はあるが、お願いでもあるのだが、小松島の中小企業に触れられる機会を意識していただけたらと考える。私はNPO法人の代表理事として、地域と住民と行政をつなぐことを普段の仕事にしている。本日の運営協議会の委員も社会に根をはられた方々であるので、地元の中小企業とつながる機会をもっと組み込んでいただけたらと考えた。将来大学へ行った後も、ふるさとへ戻ってきて就職してくれるような若者が増えることを私も望んでいる。学生たち

と話す機会があるが、安定していて有名であるという理由から、大企業に入りたいと希望する生徒が多いように思う。中小企業に魅力を感じている。大きな企業なら自分のやりたいことがしにくい、中小企業であれば、自分のやりたいことを立案して会社がさらに成長していけるような活躍が、実は中小企業の方がしやすい。社員一丸となって頑張っている企業が小松島にはあるので、そのような企業を見学に行くような機会を設けてはどうか。ご相談いただけたら、つなぐことができる。そのような機会を教育活動に盛り込んでいただけたら。

(板東副会長)
ぜひご相談したい。

(内山委員)
小松島市の方でもそのような企業を見学する事業がある。そのような事業を活用いただけたら。昨年度は小松島西高校で利用いただいた。

(町田委員)
進学率が多いことに驚いた。進学する生徒も、企業を見学することで進路を決めるきっかけになればという校長にも共感した。阿南市にも商工会議所がある。小松島高校は阿南市からの生徒も多いと思う。徳島市と阿南市の中間地点という利点を生かし、範囲を広げて考えてみては。

(井村委員)
学校要覧にも3分の1が小松島市内、阿南以南からの生徒3分の1、徳島市内からは3分の1のようである。以前は小松島市内からが7割以上であった。県外に進学した生徒も徳島に戻ってきやすいような体制づくりに取り組むべきだ。

(畠会長)
大学生も8割から9割の生徒がインターンシップに参加している。その後仕事を決めていく流れである。3年生くらいから動き出す、高校生の時に、企業見学などの機会があれば、進学してからさらにインターンシップに参加する時もハードルが低くなるのではないかと思う。

(町田委員)
今は見学は何社くらい行っているのか。

(板東副会長)
就職希望の生徒は応募前見学をしている。

(笠江教諭)
現状はできていないが、2年生で体験を企画段階だと聞いている。

(牧野教頭)
先日、求人をいただいている企業からお話を伺う機会に、就職を希望する生徒だけでなく、進学した後、地元に戻ってきたいという生徒のための見学も受け入れていただけないかという依頼をし、承諾いただいている企業もある。少しずつでも取り組んでいけたらと考えている。

(太田教諭)
コロナ前はインターンシップという取り組みがあった。

(畠会長)

地域にいろいろなリソースがあるが、学校の中にもたくさん行事があり、また働き方改革もあるので、バランスも大切である。例えば、ボランティアも、学校祭も、防災もというような視点を1つの行事に入れば、相乗効果もあり、働き方改革にもなるのではないか。

学校評価計画についてご提言やご意見があればいただけたら。

これからはコロナ禍も明けて、昨年度とはまた違った形になっていくのでは。次の会での報告を楽しみにしたい。

さらに、進めて4つ目の校則について意見があればいただきたい。

(井村委員)

先ほど、ブラック校則という単語が出てきたが、頭髪指導などに関して、新しい知事は見直すということを行っているが、実際ヘアスタイルなどについては厳しいのか。

(安崎教頭)

個々の生徒に応じて対応している。今のところ、対応が必要な生徒はいないように感じている。染色やパーマなどは指導し、生徒は素直に対応している。本校の校則にも交通安全に関する記載があるが、道路交通法の改正により、自転車利用時のヘルメットの着用が努力義務となった。校則にヘルメットの着用を記載する学校もある。交通安全についても学校運営協議会において議題にしたい。高校生のヘルメット着用は難しい面もある。

(井村委員)

自分も経験があるが、ヘアスタイルなど高校生は気にする部分もあるのではないか。

(佐藤委員)

自転車運転時のスマホの利用をより気にかけて欲しい。道路交通法違反にもなる。

(井村委員)

ヘルメット着用はすすめるべきだと思う。着用に取り組んでいる県立校もあるようである。実際、ヘルメットを着用していて、大きな怪我にならなかったといった事案もあるようだ。

(牧野教頭)

PTA総会でも警察の方にヘルメットの着用も含めて講話をいただいた。実際は、品不足の現状もあるようだ。

(井村委員)

最近、大人が被っている様子も見かける。代用の品もあるのではないか。

(板東副会長)

中学校の時に利用していると思う。中学生の時のものは使えないか。

(安藤委員)

中学3年間使うと、傷みはひどくなる。中学生の時のものの着用は難しいのではないか。

(町田委員)

おしゃれなものもあるようであるが。

(安藤委員)

3年間で自転車もボロボロになるが、ヘルメットもボロボロになる。

(島委員)

全体を通じて、補足的に提案などないか。

(佐藤委員)

ボランティア活動に生徒を送り出すときに、気をつけて欲しいことがある。「ただ働き」をすることがボランティアではない。生徒がその先でどんな経験をしてきたか、どんな学びを得てきたかが重要である。生徒を学校から送り出す際には、その活動を通じてどんな経験を得ることができるのというような問いを与えてほしい。そのボランティアを通して、企業の魅力やプロジェクトの立ち上げを見てくるかもしれない。本人の成長の手助けになるような経験になるよう、質問をすると効果的であると思う。文部科学省も学校外社会体験活動を進めているようだ。

(島会長)

パンフレットにもあるように、自分とむき合ってから人とむき合って、世界とむき合って広がりを持っていく。自分の存在意義を深めることとつながる。自己理解も進め、このボランティアに行ったら、存在意義がどのように意味付けされるのか、そのような仮説と検証がしていければと思う。

本日の全ての協議について、承諾はいただけますか。

全委員 異議なし

(島会長)

これで全ての協議を終了します。

※事務局より 事務連絡

(牧野教頭)

- ・次回第2回学校運営協議会は10月下旬ごろから11月中旬を予定している。できれば第2回のオープンスクールと合わせて行いたい。実際の生徒の活動をみていただけたらと考えている。休日の実施になるので、開催の2か月前にまでにはスケジュール調整を行い、依頼書を発出させていただく。
- ・本日の議事録はホームページに公開することになっている。公開前には事前に委員の皆様にご確認いただく。